



がっこう
学校だより

じゅうてんもくひょう

重点目標 「スマイル100% ~つなげよう 自分のハート♡みんなのハート♡」

和の玉まるく！

2024(令和6)年

やまとしりつしぶやしやうがっこう
大和市立渋谷小学校

がっこう
2月号



「できていることを見て声をかける」

手に取った本の一冊に「行動分析学」についての文献がありました。内容を要約すると、課題となる行動のもととなる、その子にとってのメリットとデメリットは何かを見極めてそれらの条件を強めたり弱めたりするように環境を調整することで行動が変わるという話でした。

ちょっとわかりにくいので、例をあげると、すぐ奇声をあげ大泣きする幼児がいます。お母さんが泣き止むように笑顔であやして声をかけますが、泣き止んでもすぐに同じ行動になるのだそうです。どうしてよいか悩むお母さんに対して、行動分析学の先生は、お母さんに「泣いたら離れる」「泣き止んだら近づいて笑顔で話しかける」ことをやってもらったそうです。するとこの子は泣き止む回数が減り、穏やかに過ごせるようになったそうです。この子にとっては泣くことでお母さんの笑顔が見られるというメリットだったと見極めて課題解決に向けて環境調整を行ったということです。

この本を読んで「これは」と思うことがありました。学力学習状況調査のアンケート結果などから、本校でも約一割の児童に、いわゆる「自己肯定感が低い子」がいると示されています。もちろん私たち大人は自己肯定感が高く、生き生きと過ごして欲しいと望んでいます。しかし、もしかしたら、先程の赤ちゃんのお母さんと同じで、私たち大人の行動が自己肯定感が低い子にとってマイナスの環境を作っているのではないかと考えたのです。

つまり、「できないことを見て声をかけてしまうことが多いのではないか」ということです。「できていないから頑張れ」「頑張ればできるようになるはずだ」「これくらいできないと」などと誰もが励まそうと思いつい良かれと思って口にしていくと思います。でも大人でも言われ続けたら苦しい言葉かもしれません。考え方を改めて、「できていることを見て声をかける」ことを行うようにしたらどうでしょう。「そんなきれいごとを言っても」となりそうですが、せめてそのような環境を増やすことを心がけてみたらどうでしょう。自己肯定感が高まり「前向きな表情」が出てくるかもしれません。

「自分で考え行動すること」「自己責任を持つこと」、これから18歳で成人となり不安も多い世の中で、児童が今から成人までに身につけてほしいこの力の源となる「自己肯定感」を、どの子にも持ってほしいと考えました。そのためにも「できていることを見つけて声をかける」こと。児童を見守る大人が意識して増やしていけたらと思います。校長

※参考文献「メリットの法則 行動分析学と実践編」著者 奥田健次

【125周年プロジェクト進捗】

125周年プロジェクトは、学校職員代表とPTA本部をプロジェクトチームとして計画を検討しながらも、実施に向けて一部、動かし始めたことがあります。

多くの意見があった、「記念の航空写真」については、複数の業者から選定し次年度実施に向けて依頼をしました。5月の撮影に向けて日程を調整し撮影を行う予定です。校庭に児童が並んで空撮するとともに、貴重な学校周辺の地域写真や、全校での集合写真などを撮影してもらおう予定です。その後、希望者への写真販売を行います。

また、25年後の150周年で卒業生として関わることができる「タイムカプセル」は、土に埋めるのではなく、校舎内にあるメモリアルルームに、施設をしたBOXを設置し、今の時代のメッセージを25年後に送るということで行いたいと考えて準備を進める予定です。

【集金方法の検討】

現在の集金方法について検討をするためにPSメールにてアンケートをお願いしたいと考えています。